

高校人国記

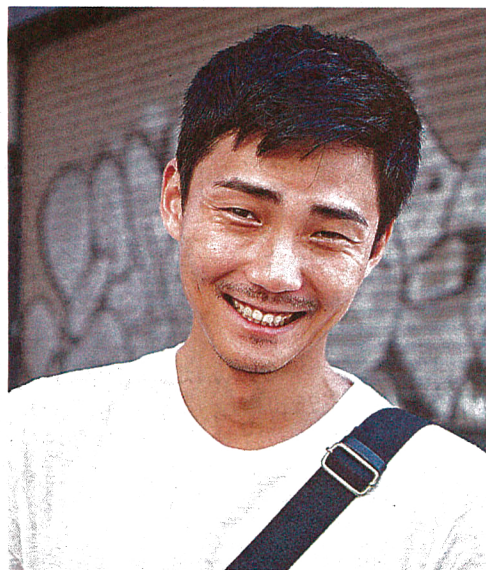
銀河学院高校(福山市)①

女子高の伝統
共学化の今も

銀河学院の高校教室がある1号館(正面)。
右はぎんがの郷小



＜校名＞銀河学院中・高等学校
＜所在地＞福山市大門町119の8
＜校長＞吉岡直人(10代目)
＜クラス数＞高1、3年は6クラス、高2年は7クラス
＜生徒数＞高校は565人
＜校名の変遷＞1980(昭和55)年、私立福山女子高等学校▽98(平成10)年、銀河学院高等学校(男女共学校)
＜校章＞「知性・感性・理性」を表わす三つの星とそこに到達するための楕円形の銀河の道を図案化し、宇宙に浮かぶ地球をイメージしたスクールカラーの青色で表現



俳優 毎熊克哉

午前8時。NHK総合テレビ。軽快な主題歌「あなたとトゥラッタッタ」とともに、連続テレビ小説「まんぷく」が始まる。脇役の1人に、インスタントラーメン作りに挑む立花萬平が経営していた製塩会社の元社員で、その後も何かと彼を手伝う森本元がいる。演じている毎熊克哉(31)は2005(平成17)年の卒業だ。

「高校1年秋からストリートダンスを始め、授業が終わるとすぐ帰宅して別の高校の友達と練習に励んでいた。ダンスで夜更かしし学校ではほとんど寝ていたので、今となつてはもっと勉強しておけばよかったと…。でも後輩には逆にたくさん遊んでほしい。僕にとつての遊びはダンスで、練習や友人との思い出は人生の糧になっていきます」

主演した16年の映画「ケンとカズ」では三つの映画祭で新人賞に。吉永小百合が主演した18年の「北の桜守」などで重要な役を演じた。バイオレンス系の作品が多いが、今年4月公開の松江市を舞台にした地域発信型映画「いざなぎサンセット」でも主演。5月には「轢き逃げ 最高の最悪な日」が全国公開される。「大事な時期を過ごし自分のアイデンティティの詰まった福山や母校に、いつか恩返しできれば」と話す。福山市の東端、岡山県境に接する大門町

銀幕で好演。「いつか恩返しできれば」



表優希

広島市安佐北区出身の表優希(25)は「好きな剣道を本気でやってみたくて」オープンスクールへ。そこで剣道部監督で7段の

卒業生を含む地元邦楽奏者と共演する。

3歳から箏(ことり)を習っていた松下知代(47)は女子高時代、箏曲部で教師の補佐的な存在。「入学式や卒業式で箏曲を演奏しました。うれしく、誇らしい気持ちでした」。卒業後は作陽音楽大(現くらしき作陽大)へ進学。現在は熊本市を拠点に全国で演奏活動や後進の指導をし、洋楽との共演や作曲にも取り組む。15年(平成27)年には珍しい二十五弦箏を演奏し全国コンクールでグラプリに輝いた。

昨年は母校の箏曲部20周年記念イベントに招かれ、自作の曲を先輩と一緒に演奏。「どんなことがあっても頑張れることを見つけてほしい」と話した。今年は「ばらのまち福山国際音楽祭2019」で邦楽のステージをプロデュース指導。母校箏曲部の卒業生を含む地元邦楽奏者と共演する。



松下知代

に1980(昭和55)年、私立福山女子高校として開設された「若い学校」だ。97(平成9)年、銀河学院中を併設し、98年には高校名も銀河学院に変えて男女共学化。中高一貫校となった。2008(同20)年には小学校も併設。卒業生は7300人を超える。剣道が必修科目で寒稽古があり、週の初めに「礼法」として座禅や校長訓話を行うのは、女子校以来の伝統。クラブ活動には箏曲や茶道もある。

洋楽共演や作曲。箏曲の世界広げ後進も指導



徳山稚子

高橋和久(58)は現主幹教諭に褒められたことから入学。4畳一間の下宿生活も経験した。「最初の半年は面も着けさせてもらえなかったのが、死ぬほど努力しました」。稽古の後4分走り、竹刀に鉄の重りをつけて素振りをする。県大会で団体3位の成績を残し、3段を獲得した。

現在、郷里の道場で子どもたちに剣道を教えつつ、広島テレビの情報番組にレギュラー出演。ラジオのパーソナリティやカープ女子会サブリダーなど多彩な活動をしている。3月にはレギュラーを降りて転勤する夫と共に鹿児島県へ移るが、今後いろいろな人と出会う活動をして生きる幅を広げたいと前向きだ。

徳山稚子は小学校の頃、劇団四季のミュージカル「美女と野獣」を見たのがきっかけで同劇団を目指すようになった。バレエ、日本舞踊、声楽・レッスンを重ね、高校時代からは個人の先生に合唱を習った。16(同28)年に同劇団の研究所に入所。「オペラ座の怪人」で初出演を果たした。「今、目の前のやるべきことをこつこつと積み上げていけば、その先に道が開けるはず」とは体験に基づく後輩へのアドバイスだ。

敬称略
(客員編集委員・富沢佐一)

次回は8日に掲載します。

「高校人国記」は広島、山口両県を中心に回って、高校ごとに話題の卒業生を紹介しています。各校の情報をメールなどでお寄せください。宛先は〒730-8677広島市中区土橋町7の1、中国新聞編集局「高校人国記」係。メールは、bokou@chugoku-np.co.jp